

甘い新婚生活とは、無縁な二人である。

新郎の落合貴之氏(34)は、「みんなの党」衆議院東京6区(世田谷区の北部と西部)支部長だが、昨年暮れの総選挙で落選した。

新婦の堀内久美子さん(29)は、そんな彼を支えるいわば「糟糠の妻」である。

落合氏は世田谷に生まれ育ち、慶応大経済学部卒業後、三井住友銀行に勤めた。しかし、就職3年目の2005年秋に退職。

「もともと政治家志望でしたが、その夏、小泉首相が郵政解散に打って出た。いてもたつてもいられなくなり、20代で政治の世界に身を投じ、下働きから始めてみよう、と思いついたので」と、彼は政界再編を睨み、中心となりうる人物を無所属議員から探した。

「当時、新党を作れそうな人は江田憲司さんしかいなかった。そこで、年収200万円でもいいから雇って下さい」と、メールしました」

江田氏はその郵政選挙

に神奈川8区から無所属で立ち、返り咲きを果していた。晴れて江田氏の公設第一秘書となり、選挙区に張りついて「ドブ板」をこなし、民主党が政権を取った09年の総選挙では、「みんなの党」を渡辺喜美氏とと

美容用品の商社に勤めるが、「転職しよう」と会社を辞めて、時間があり、みんなの党にも親しみを感じていたので、選挙のボランティアをすることにしましたのです。松田氏は初当選を果す。落合氏はその公設第一秘書を経て、10年11月、世田谷

結婚

東京6区で「糟糠の妻」と雪辱を期す 江田憲司代議士の元秘書

にも旗揚げした江田氏の議席を守りぬいたのである。

10年夏、参院選で同党から出馬した松田公太氏の選挙を手伝い、新婦と出会う。久美子さんは四国の最西端、佐田岬がある愛媛・伊方町の出身で、東京女子大文学部英米文学科を卒業。

三軒茶屋に自身の事務所を開き、いよいよ自ら衆院選へ向けて活動を始めた。

横浜の行政書士事務所に転職した久美子さんは、引き続きサポーターの一員だった。風向きが変わるのは、11年のクリスマスである。落合氏によると、

「グループでの食事が、他の人たちの都合がつかず、二人で渋谷のイタリアン居酒屋に行きました。初めて二人だけで話すと、気が合うんですよ。ワインはいきなり赤、生野菜より温野菜が好き、と選び方も一緒。家庭環境も似ていて、うち



差で逃した。決まったのは投票日の翌朝5時。虚脱状態の二人だったが、氏は、彼女なくして、次の選挙は戦えないと、その場でプロポーズする。「フリーターのような暮らしになるだろうけど、それでもいいかい」

久美子さんは、ウソをつかず、きちんと政治活動に取り組んできた人柄を見込んで承諾する。明けて2月14日に入籍。

この9月29日、ホテルグランドアーク半蔵門で結婚式と披露宴が行われた。落合氏が尊敬する田中秀征・元経済企画庁長官は、「都会育ちの彼が、田舎出身の奥さんをもたらしたのは、とてもいいことですね。今、野にいまする中では有数の人材ですから、期待しています」

久美子さんは、宇和島の魚を東京に売り込む企業に転職して、故郷に貢献しながら、御礼行脚を続ける夫を支える。雪辱を果すのは、3年後になるだろうか。